

## 小貝川と平将門

小貝川は那須烏山市曲畑(そりはた)を源流とする延長 112 kmの河川です。天智・天武天皇時代頃までは、小飼川又は蚕飼川と呼ばれていました。上流の栃木県内にはラバーダムや転倒ゲートがたくさんあります。

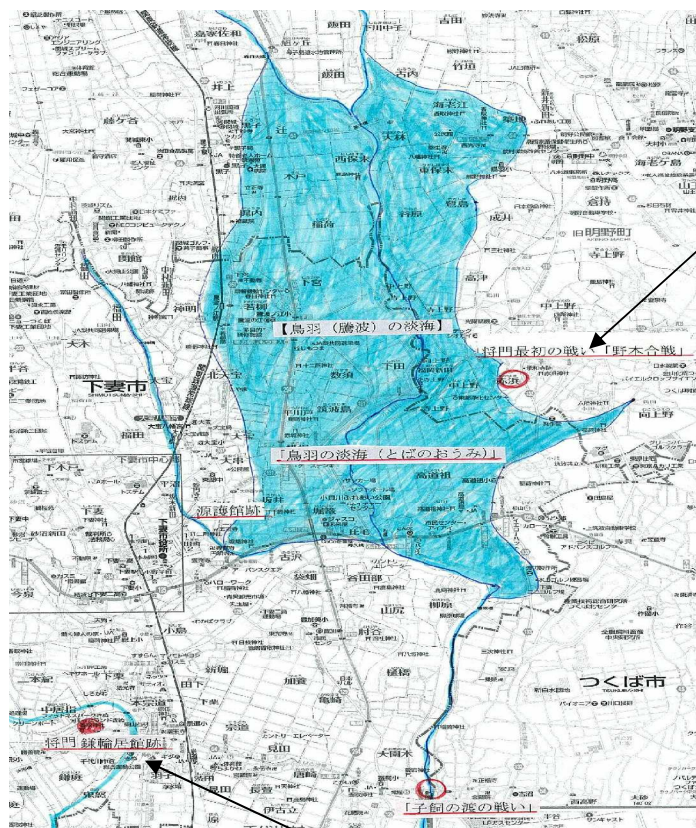


小貝ヶ池(水源地)この側溝から流れ出る



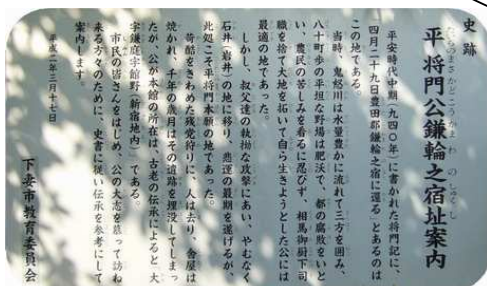
ラバーダム 埧堰

平将門が活躍した900年代、小貝川は筑西市飯田(大谷川合流点)を過ぎると、鳥羽の淡海(とばのおうみ)という大きな湖になっていました。(下図参照)



### 将門 最初の戦い「野本合戦」

『将門記』によれば、仕掛けられた戦だった。承平5(935)年2月、源護(みなもとのまもる)の三人の息子、扶、隆、繁との間に起きた戦いである。赤城宗徳『新編将門地誌』によると将門が妻子とわずかな従者をつれて、妻の実家(平真樹)の真壁郡大国玉から、本拠千代川村の鎌輪に帰る途中、野本にさしかかったところを、不意にこの三人の部隊が襲ったのである。伯父の平国香は源扶らを救援せんと野本に出陣したが、共に破れ本拠地石田に逃れるもそこで没します。この野本は、旧明野町赤浜付近とされています。



930年代前半、将門の本拠地は、鎌庭字館野(新宿地内)香取神社付近らしい

「鳥羽の淡海（とばのおうみ）」は

万葉歌人が「つくばねのもみぢちりしく風吹けばとばの淡海に立てる白波」と、歌にも詠んだ騰波ノ江が万葉の時代、この湖の美しさに多くの人々が心を奪われたことがうかがえる。

鬼怒川は約二千年前、下妻市南部を東流し、糸繰川に導入され小貝川と合流していた。鬼怒川の東流と付近の隆起によって小貝川が堰き止められ、その北側にできたのが鳥羽の淡海である。



子飼の渡し址から筑波山を見る

### 小貝川「子飼の渡しの戦い」 将門最初の敗戦

承平7(937)年、源護からの訴えを許され都から帰郷後、伯父の平良兼が、8月6日に常陸・下総両国の境にある子飼の渡しを囲んで攻めてきた。良兼軍は高望王と平良将という将門にとっては祖父と父の像を陣頭に掲げ平氏一門の反逆者討伐を装う奇策を用います。将門は、兵が少なく、準備もすべて劣っていて、退却せざるを得なかった。鎌輪付近はすべて焼かれ将門は退き、鬼怒川「堀越の渡しの戦い」と続いて連敗したがその後、猿島郡石井郷(岩井市)にて兵力を蓄え、この後の戦いで鬼神のような働きで将門は再び勢力を盛りかえします。

### NJK通信 3の答え

天慶2年(939)12月、上野国府に攻め入り無抵抗で手に入れ、勢力は常陸、下野、上野、武蔵、相模、伊豆、下総、上総、安房に及び朝廷に対抗し新天皇を宣言した処です。

### 北山の決戦 将門の最期

天慶3年(940)2月14日、将門が宿敵平貞盛(子孫：平清盛)・藤原秀郷(子孫：奥州藤原氏)と決戦を行い破れた戦場は本拠地石井郷の北山と言われ、国王神社付近が将門戦死の地と言われている。



石井の井戸



国王神社



島の薬師(延命寺)山門

将門没後、平忠常の乱(房総3箇国)等ありますが、源頼朝：武士政権の芽生えが着実に始まって行くのです。